ICTを効果的に活用した教材開発の例(中学校)

活用① アンケート機能を活用した実態把握

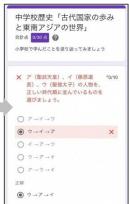
単元の導入時、または、既習内容の定着状況に関する生徒の実態について、アンケート機能を 使って把握する。これにより、教材開発に関わって以下の2点が期待できる。

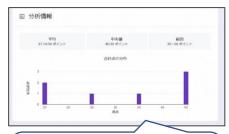
- (1) アンケート機能を使って既習内容(知識)に関わる問題を出題することで、単元に関わる学習内容の定着度を把握し、単元構成や指導方法を工夫することができる。
- (2) アンケート機能を使って資料活用能力に関わる問題を出題することで、単元で提示する資料について、生徒の実態に合わせた難易度に設定したり、指導・援助を工夫したりするこ

とができる。



即時評価





全体の傾向や一人一人の実態 を把握することで、単元構成、 一人一人に応じた指導・援助を くふうすることができる。

活用② Web 会議システムを活用した遠隔地にいる方との対話的な学び

生徒主体で設定した課題に対して、資料 を基に追究し、考えを集約する。

生徒が集約した考えを現地の方に聞いていただいた後、現地の方の考えを聞く。

【Web 会議システムの活用】

現地の方の考えを受け、さらに質問したり、やり取りをしたりすることで、学びを深める。



生徒A:

起業がカギとなっている ことは分かったけれど、起 業する人はなぜ○○村を選 択したのだろう?

生徒B:

過疎地域なのに、 「持続可能な社会に 繋がる」とは、どう いうことだろう? 現地の方が左記のように、生 徒からの質問に対してその場で 回答することで、学びを深める ことができる。